令和元年度　第１回静岡市生涯学習審議会（第６期第１回）　会議録

１．日時　　令和元年８月１日（木）　午後６時 30 分から午後８時 50 分まで
２．会場　　静岡庁舎　本館３階　第３委員会室
３．出席者
【委員】　　15 名
的場会長、弓削副会長、白木委員、田井委員、渋江委員、大橋委員、前林委員、中村委員、雨宮委員、佐藤委員、井出委員、柴田委員、曽根委員、伴野委員、浜田委員
【傍聴者】　４名
【事務局】　堀池市民局次長、秋山参与兼生涯学習推進課長
岡本課長補佐兼生涯学習推進係長
織部生涯学習施設整備担当課長兼施設管理係長
大石人づくり事業推進係長
（生涯学習推進係）
石川主査、宮内主査、竹澤主査、榎本主任主事、田形主任主事
（人づくり事業推進係）
田中主査、佐藤主任主事
４．欠席者　　なし
５．議事
（１）静岡市生涯学習推進大綱・推進計画について
（２）未来を創る人材の養成について
６．会議内容
下記のとおり

事務局
＜議事第１号について説明＞

的場会長
まず、はじめに確認しておくことは、今期の審議会における審議内容についてです。
前期（第 5 期）で審議した利用方法の見直しについては、内容が固まりましたら事務局から、改めて報告いただけるということでした。
先ほど事務局が説明したのは、静岡市の生涯学習を進めていくための方向性である生涯学習推進大綱に沿った具体的な推進事業のことです。この推進計画や各事業がその方向性に沿った内容で取り組まれているのか、モニタリングや進捗状況の確認を行い、ちゃんと実施されているか確認していくというのが、今期の審議会委員に課せられたテーマということ

です。
大綱の１ページ目に、静岡市の生涯学習について記載があります。「暮らしの中で主体的に行われる多様な学び」が生涯学習であり、「学びを楽しみながら自分らしさを育くんで、より豊かな人生を送ることは誰もが持つ権利です」と定められています。行政としてはこの権利を市民が行使できるように環境整備をしなければならないし、権利を保障しなければならないということで、基本構想・基本計画・推進計画の実施という体系になっています。この計画の方向性が正しいか、事業が進んでいるかをチェックしていくため、先ほどの事務局が説明した資料１～４の前期・後期計画について私たちが議論するものであるということです。
本日は１回目ということで、できるだけ多くの皆様に意見をもらうため、順番で発言いただきたいと思います。

白木委員
資料４のモニタリング指標の設定は大事なことですが、どういった考え方で指標を置いたのか見えてきません。どういう考え方で進めていくのか見えてこないので、指標の妥当性を検討させていただきたい。

田井委員
確認ですが、資料３の後期計画における成果指標は、各事業課が大綱における成果指標を見ながら設定しているものでしょうか。

事務局
事業一覧に掲載されている各事業課が、それぞれ設定している各課の成果指標を達成すれば、おのずと生涯学習の推進に寄与することとなり、大綱における大きな成果指標が達成されると考えています。

的場会長
各課の指標と大綱の指標の間に統計的にどれだけの相関関係があるのかまでは押さえられておらず、各課がそれなりに指標を達成すれば、市としての大きな目標に近づくだろうという、定量的ではなく定性的な考え方で整理されている。その認識でよろしいですか。

事務局
はい、そのとおりです。

渋江委員
皆様の意見を聞きながら、何かありましたら質問票等で意見します。

大橋委員

資料 1 で未達成の事業がいくつかありますが、未達成となった原因みたいなものが確認できません。それから、この指標は年度の指標でしょうか？例えば１ページの「英語 de おもてなしサポーター養成講座」は成果指標としている「講座終了後、実際におもてなし人材として活動している人の割合 30%」が 29.1%で未達成となっていますが、資料３の１ページでは後期計画末の令和４年度には 40%を目指すとなっています。年 2.5%以上伸ばして達成させるということでいいのでしょうか？

事務局

はい、最終年度に達成させる指標となります。

大橋委員

わかりました。それで、未達成には何か理由はあるのでしょうか？

事務局

現状、各課に指標の設定根拠や理由までは聞いておりませんので、各課へ確認させていただきたいと思います。

前林委員

生涯学習は楽しみを作り出し、豊かな人生を送ることなんだろうと思います。資料４を見ると、「生涯学習を行っている市民の割合」を、中間実績 46%から 50%、最終的には４%アップ、つまり今後 4 年間で 2.8 万人上げるという目標を掲げています。現状、学習活動を行っている 46%の人たちは自主性・積極性があり、問題意識を持っている方です。そういった方以外で更に 2.8 万人を増やしていくということなので、最初に話した楽しみを作り出すような、楽しみを求めてくるようなものを作ることが一番の目標ではないかと思います。そうすれば、50%の目標に近づくのではないかと思います。

資料３に掲げられているような各事業はこういった人に来てほしいというターゲットが決まっていると思います。ここでの記載内容が少ないため読み取れないだけかもしれませんが、各事業の特色を打ち出すことでよりいいものになるのではないかと思います。

あと、「ひきこもりサポーター初級養成講座」という講座がありますが、「ひきこもりサポーター」という名称が本当にいいのでしょうか。

中村委員

どれだけインターネットを活用していくかが重要だと思います。市のホームページを見てもなかなか目的にたどり着けない。体系的に作られているとは思うが、知りたいことをキーワードなどで探せないと、情報を発信しているとは言えないんじゃないかと思います。

成果指標について言えば、利用方法の見直しを行うことで施設利用者数が減少する可能性

もあるが、では実際減ったから良くないと言えるのか、そのあたりを指標としてどう考えていくかだと思います。

雨宮委員

掲載事業は各課が実施している生涯学習に関する事業なのでしょうか。みんなが「楽しかったね、勉強になったね」という感想を持つのが生涯学習だと思う。どの課も同じようにただ載せているだけと感じてしまいました。

佐藤委員

資料２の５ページで、交流館文化祭で参加団体が増加したとあるが、交流館だけなのか。
それと、生涯学習に関する事業として前期推進計画の掲載事業は 138 もあり、これだけ勉強する機会があるのに、資料４のモニタリング指標では施設の利用者数は減少している。また、目標が「現状維持以上」で良いか疑問です。
それと、「こ・こ・に受講後、地域や社会のために行動した人」の数値は追跡アンケートで数値を出しているが、アンケートの回答率はどのくらいなのか。数値が高くなっているのは、回答した人は意欲のある人だからではないかと思いました。また、こ・こ・に交流会に参加した人の満足度について、2018 年度の実績 87％に対して目標値 85％だと実績に対し目標値が下回ってしまいますので、下がっていくのはどうなのかと思いました。

事務局

「地域や社会のために行動した人」の数値を確認するための追跡アンケート回答率は 46.2％です。回答率は昨年度より多少上がっていますが、急激に上がっているというわけではありません。
また、こ・こ・に交流会に参加した人の満足度についてですが、この交流会は講座の垣根を越えて修了生同士がネットワークの構築を目的とするもので、３月に交流会を行い、アンケートを回収集計するのは年度が明けてからです。85％という目標値の設定はその前に行っていたものです。担当ではもう少し高い目標に見直しすることも可能だと思います。

井出委員

体育施設と歴史資料館が推進事業一覧に搭載されていないのは理由がありますか？

事務局

各施設所管課としてはそれぞれの計画に位置付けられていると思いますが、生涯学習関連の事業としては掲載しておりません。指定管理の事業では健康づくりに関する講座は行っています。歴史資料館のことも併せてまた確認してお知らせいたします。

柴田委員

資料４の成果指標「学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合」ですが、私も受講しておりました「しずおかお茶の学校」の修了生の間でも、学んだことを活かす活動の場がない、ということが言われておりました。私は仕事柄、市のお茶まつりなどに参加することもあるが、もっと市民が活動できるようにボランティアを募集するなどして、学びを活かすことを考え、この「学んだことを地域や社会での活動に活かしている市民の割合」20％という目標値をもうちょっと上げたほうがいいのではないかと思います。モニタリング指標の「こ・こ・に受講者が地域や社会のために行動した人の割合」も同様です。以前、市長からこ・こ・に各講座にかけているお金の話を聞いていますので、もったいないと感じました。

曽根委員

生涯学習を行っている市民の割合を上げるには、ニーズの把握が大切だと思います。ただ、既に生涯学習を行っている人には施設利用者に対してアンケートなりインタビュー形式なりで把握できますが、生涯学習を行っていない人の意見を正確に把握するのは難しいと感じました。

伴野委員

学習する側の立場としては、市は学習情報案内サイトなどで情報発信していると言うが、利用してもうまく見つからない、総合案内みたいなものがない、学習センターのホームページにいってもリンクが少ない、どうやって講座を見つけようか考えてしまう。

県には「まなぼっと」という総合案内サイトがあり、情報を得るのに助かっているので、市もそういったものがあるといいかと思いました。「ここからネット」というものもあるが、まだ「学びを活かす」ための活用方法が見えてこない、静岡市は情報提供が弱いのかなと思います。

浜田委員

この資料を見て、こんなに生涯学習の事業があるのかと驚きました。こういった評価は、学校においても教育した評価はついてまわるもので、生涯学習でも同じかなと思います。指標については数値が高い・低いとかでなく、前林委員のおっしゃるとおり楽しむことが第一で、これが欠けていたら生涯学習でないと思う。私が教えている吹奏楽団は中学生から入れるようにしましたが、いろいろなことに挑戦したいという子もたくさんいた。子どもたちは部活とは違うジャンルの学びをしたいという希望を持っている。そういった受け皿として考えることが大事じゃないかと思います。

私が有度の生涯学習交流館で働いていたとき、こんなことをやりたいと利用者から言われたときは、団体を作ってみたらどうですか、と案内していた。住民からよく情報収集してニーズを把握し、いち早くニーズを察知し静岡市としてどうするかを考えることが大事だと

思います。

弓削副会長

資料４のモニタリング指標“生涯学習施設における主催・共催講座の参加人数”と“生涯学習施設の施設利用者（貸館利用者）数”が平成 30 年では減っています。そもそもなぜ減ったのか、理由を知った上で目標値を考えていかないと、モニタリングの設定意味がよく分からないまま終わってしまうのではと思います。

的場会長

ありがとうございました。ただいまの各委員から出ました大綱や推進計画についての感想や意見をまとめますと、成果指標やモニタリング指標に対する意見。そもそも生涯学習とは何かと、立ち返って考えていくべきではないかという意見。情報化時代で情報発信が市民にとって活用しやすいものかどうか検証が必要という意見。それと、各課の取り組んでいる事業がやりっぱなしではなく、参加者や受講生に静岡市にどう関わってもらうのか、どう活躍してもらうのか、活動の場を提供するなどのフォローが大事という意見もありました。

私も意見を申し上げると、行政はよくたくさんの既存事業を集めて計画を策定していますが、あっちが 100 事業計画に搭載しているからこっちは 120 事業やろうとかいう競争になる。大綱に掲げている目標に対して、成果を上げるための必要な事業は何なのかを見失いがちになります。事業を実施しても、目標達成に寄与していないということが多々あります。

行政ではＰＤＣＡサイクルということがよく言われます。今回の評価はＣのチェックになります。これからは、どう改善していくか“（Ａ）アクション”の部分を押さえていかなければなりません。その点を踏まえて、今後審議会では大綱や推進計画の進捗管理をさせていただければと思います。

まだ皆様たくさんのご意見ご感想があると思いますが、後日質問票にて記載いただきたいと思います。

それでは次は議事の２号、「未来を創る人材の養成について」です。

まず事務局からこの議事を取り上げた理由を教えていただけると、理解しやすいかと思います。

事務局

ただいま推進計画について審議いただきましたが、その計画で大きい部分を占めるものとしてこの“未来を創る人材の養成”という取組みがあります。その中で静岡シチズンカレッジこ・こ・にでは多くの事業が掲載されていますが、生涯学習推進課が中枢として行っている地域デザインカレッジや高校生まちづくりスクールについては力を入れて行っている事業であります。新しい委員さんもいますので、審議会委員の皆様に紹介し意見をいただいた上で、今後より発展させていこうと考えております。

＜議事第２号について説明＞

的場会長

ありがとうございました、それでは時間的なことがありますので、どなたか限定して意見をいただこうかと思います。

人材育成と心の豊かさと学習成果に関する評価とその後の活躍が推進されれば、生涯学習が充実した社会だと言われています。その人材育成について特に生涯学習推進課が担当しており、静岡市ではシチズンシップに富んだ人材、地域社会の課題を解決できるような人材を育成したいというのが静岡シチズンカレッジこ・こ・にであり、高校生を対象に早いうちから人材育成に取り組んでいるという事業であります。

井出委員

静岡シチズンカレッジこ・こ・に卒業生の声としての意見です。地域課題は発見できるのですが、課題解決のため、例えば自治会に働きかけても止まってしまう。そこでフォローも何もないので、終わってしまう。そういった意見が何人かから上がりました。フォローの方法については検討が難しいですが、大事な意見だと思いました。

伴野委員

生涯学習の中で、地域の課題はどういったところにあるのか、どう解決していくのか、そういった人材を育成して更に活躍の場を設ける講座を充実させていただきたい。自分も講座に参加することによって静岡市の課題をいくつも発見できました。課題は難しいものですが、解決のため実行できるよう、活躍できるような環境を充実してもらいたいと思います。

浜田委員

自治会でも中学生、高校生を育成するというのが課題となっております。自治会では高齢者が多いが若者が少なく、防災訓練に若い者は出てこない。勤めていた清水区の学校では中学生と自治会が交流していた。葵区ではそういった交流があまりありませんでした。講座で若い方と高齢者をつなげるようなものがあればいいんじゃないかと感じます。

的場会長

ありがとうございました、ただいま３人から実体験に基づいたご意見をいただきました。今後の政策の中で反映できるものであれば反映して、見直すところは見直していっていただきたいと思います。それでは時間もありませんので、ほかに意見があれば質問票でお願いしたいと思います。

最後に、世の中はモノからコトへという流れと、動きがある言われています。モノは物質的なものでコトは体験でありますが、これからは体験を通して自分の考えや希望を考えていくということが大切です。これは取りも直さず生涯学習の体験を通して考えていくことで

はないかと思います。
ＩＣＴ、ＩＯＴによる社会の変革も言われています。その中で静岡市の生涯学習では市民が人生を楽しむにはどうしていったらいいのか、個々の事業も大切ですが、大きな方向性についても意見をいただいて、審議会として行政に答申を出せたらいいかと思います。
それでは事務局の方にお返しします。